

深谷市立榛沢小学校  
学校だより

令和2年度12月号

発行 令和2年11月27日



# はんざわ

児童数 180名

教職員数 26名

学校教育目標  
目指す児童像

ふるさとを愛し、自己の夢の実現に向けて努力する児童の育成  
進んで勉強する子 思いやりのある子 体をきたえる子



栄一翁の心を引き継ぐ教育



深谷市立榛沢小学校長 横田 茂男

「青天を衝け」の「大河ドラマ館」が来年2月16日に開館します。渋沢栄一翁を取り上げる書物も多くなりました。栄一翁が全国から脚光を浴びるのは大変喜ばしいです。

ところで、栄一翁が偉人と呼ばれるに至った理由に、「様々な人の意見を聞き入れ、考えを改める柔軟性があったこと」「ヨーロッパの資本主義経済を自分の目を見たこと」「道徳を重んじたこと」を挙げる研究者がいます。伝統的な社会に資本主義が入るとモラルの低下が起こりやすいと言われます。そこで、栄一翁は「道徳経済合一」を唱えるようになります。「利潤の追求が目的であっても、根底には道徳が重要である」との考えです。「人の上に立つ人間の行いが正しければ、下の人間は命令せずとも実行する。」との孔子の教えに通じるものです。

本市では、栄一翁の「こころのありかた」「人や社会との関わり」の精神を受け継ぎ、生涯を通じて「こころざし(夢や目標)」と「忠恕の心(まごころと思いやり)」を大切にすることを推進しています。

私は子供たちが生活する上での合言葉として「せかい」を掲げています。「せ」は「清掃・清潔・整理・整頓」、「か」は「感謝」、「い」は「命」を大切にすることを指します。そして、子供たちには自分の「せかい」を広げ、「こころざし」を追い求めて欲しいと願っています。



10・11月を振り返る



手話・点字体験 5年 10月30日



1・2校時に点訳ボランティアサークル『むらさきの会』の3・4校時に深谷手話サークル『ねぎの会』のご協力をいただき、点字と手話の体験学習を行いました。みんなで支え合うことの大切さを理解する時間となりました。

ハロウィン集会 全校 10月31日



12の班に分かれて縦割り活動として行いました。衣装した6年生とのじゃんけんに勝ち、合言葉「トリックオア トリート」を言うとキャンディがもらえます。(写真左)その後、リーダーを先頭に校内をパレードしました。

ロードサポート 4年 5日



本校は、「彩の国ロードサポート」事業の協力団体です。年に2回、落合橋西側の花壇に花の苗を植え、見守りを続けています。今年度は、2回とも総合の授業の一環として、4年生が全員で苗植えをしました。

のこぎり応援隊 4年 11日



4年生の中には、のこぎりを手にするのが初めての子供たちもいました。「楽しかったです。」「この体験で人生が変わりました。」という児童もいました。のこぎり応援隊の皆様、ありがとうございました。